

群馬県精神保健福祉士会 第4回倫理委員会 議事録

日時：2024年2月27日（火）19:00～ オンライン（zoom）

参加者：白鳥（高崎健康福祉大学）、林（大島病院）、中嶋（群馬県立精神医療センター）、神尾（ハローワーク高崎）、松井（群馬病院）、長嶋（ワークセンターまえばし）、工藤（相談支援事業所みのり）

議題

1. 2月10日の研修会の振り返り

アンケート結果：おおむね良かった（共感できた、ジレンマが共有できた）という感想。

話し足りない、班以外の人とも話したかったという感想もあった。

事例提供者：松井さん ジレンマを感じた2事例

①利用者の支援内容に関しての職員の考え方で悩んだ事例
（介護保険のサービスに急いで繋げようとした事例）

②グループホームへの退院支援において医師の考え方で悩んだ事例

白鳥さんの講義：ソーシャルワーカーという仕事は、ジレンマと歩んでいく仕事で、ベテランの人でもなかなか解決は難しい、どの世代でもジレンマはあり、今回の研修会は、そのジレンマについてみんなで一緒に話し合う事が目的であることを伝えた。

【研修会の感想】

- ・最初に白鳥さんの説明があったので、研修テーマが明確になり、話しやすかった。
- ・事例の内容としてはよくある話で、グループで話しやすい事例であった。
- ・それぞれの人が感じているジレンマについてグループで話し合えた。
- ・病院のソーシャルワーカーだけではなく、地域で働いているソーシャルワーカーや相談員、職種が違う人の話や悩みを聞くことができてよかった。立場や環境が違うが共感でき、大変さも共有することができた。
- ・医者との関係性やよくする為にはどうしたらいいかという話もできた。
- ・judgeはしないということだったが、ファシリテーターとして無意識にjudgeしてしまう発言をしてしまい、どうしたらいいか悩んだ。今後の課題。
- ・初回としては、各グループでいろいろ話ができ、話も盛り上がっていたので良かった。ジレンマを話せる場ができて良かった、感情の部分で話ができ良かった。
- ・今後も話せる場を作り、みんなで一緒に悩んでいる事を共有し、考えていきたい。
- ・学生には、職場は理想と現実のギャップがあることを理解してもらい、就職後に現実に直面した時のショックを防ぐことに繋がればと考えている。

【グループでの話題になった内容】

学生のグループ)

- ・3年生と4年生が参加していたが、4年生は就職が決まっていて、仕事(人とやり取りできるか等)が自分でやれるかの不安があり、3年生は理想を持っていて、事例を聞いて憤慨をしていた。1年しか違わないが、すぐ就職する4年生と実習が終わった3

年生とでは差があることに気づいた。

現任者のグループ)

- ・医者との関りについての悩みは、昔も今も変わっていない、なぜだろう。
- ・患者や利用者の思いを伝える為に、いろいろ工夫して行なっていきたい。
- ・多職種連携と言われるが、医者の意見が強かったり、ワーカーの言いたい事がうまく伝えられなかったり等、実際はまだ難しいことも多いと感じる。ただ、やりたい仕事をする為には、ワーカーの芯の部分を中心にしていかなければならない。

2. 来年度の活動内容について

次回の定例会で検討する。

案として)

来年度の精神保健福祉法の法改正で、虐待についての取り扱いが盛り込まれるので、虐待について何かできれば（内容としては、硬くはなく、柔らかい感じ内容で）。

3. 来年度の委員会の会長について

今年度は委員長を務めた白鳥さんから、来年度は若い人にお願いできればと提案がある。

⇒来年度の委員長は松井さんが行なう予定となる。白鳥さんがフォローする。

4. 次回の定例会について

4月中旬頃の開催予定。

議事録作成者：工藤